

四万都市復活大作戦の検証について

四 竈 英 夫



【質問】本市の人口は漸減を続けている。「四万都市復活大作戦」の施策をどのように検証し、将来の展望をどのように描いているのか。

【答弁】【市長】今後、人口減少社会と少子高齢化社会は急速に進展するものと分析している。よって、子育て環境の充実や高齢者の支援、定住化の促進等、直面する課題を克服していくことが重要であると考えている。

【白石城の文化財指定について】

【質問】大震災により白石城は甚大な被害を受けた。今後、県や国からの支援を受けるた

めにも、文化財の指定を受けるべきと思うが、いかがか。

【答弁】【市長】白石城は復元されてから19年になるが、国や県の文化財指定には、一定の年数が経過しないと難しいと思われる。しかし、学術的にも評価の高い白石城は後世に永く伝える必要性があり、昨年7月6日に本市の指定文化財に指定された。当面は本市の指定文化財として保護活用

に努めていきたい。

【市道の整備について】

【質問】市道沖の沢郡山線は交通量が増え、主要幹線道路として大きな役割を果たしつつある。接続する未整備の市道改修を図り、その機能を高める考えはないか。

【答弁】【市長】市道整備の必要性は認識している。しかし、巨額の事業費を要するため、必要なところから、年次計画により長期的視点に立って検討していきたい。

【鉢森山トンネル(仮称)構想について】

【質問】国道113号のバイパスとして大平から小原に抜ける「鉢森山トンネル」(仮称)があれば、安全で確実な交通ルートが確保されると思うが、将来の夢として「鉢森山トンネル構想」を県や国に働きかける考えはないか。

【答弁】【市長】トンネルがあればいいという認識は十分持っている。

現在小原1号トンネルから福岡蔵本までの約1キロメートルの狭隘な区間の道路改良を県に要望している。

まずはその進捗状況を見守っていききたいと思っている。

「武道」の必修化について

伊 藤 勝 美



【質問】柔道は、子どもたちに危険を強い

可能性があることは否定できない。授業を受けさせても大丈夫なのかという保護者からの不安や危惧する声が多く聞かれるが、教育の現場ではどのような安全対策、対応を講じるのか。

【答弁】【教育長】武道を実施するうえで、柔道を選択する学校が多いので懸念をしている。受身の練習が一番大事だということや立ち技の太刀刈りは禁止している。すべての学校の体育教員に対して、研修会等を開きながら指導して取り組ませていきたい。

【耕作放棄地について】

【質問】放棄地は年々増加し、病害虫や鳥獣害を発生させ隣接地への悪影響が心配される。

また、水源かん養などの環境破壊につながる可能性も指摘されているが、放棄地の所有者に対して、どのような対処、指導をしているのか。

【答弁】【市長】平成21年3月の時点で248ヘクタールの放棄地が市内にある。苦情等が発生した場合、関係機関とともに所有者を確認し、直接伺ったり、電話でお願いしている。

【空き家対策について】

【質問】震災以前から管理もされず、屋根や外壁が著しく崩れ、倒壊寸前になっている放置建物が見受けられる。市民生活の環境保全、

防犯の街づくりの観点から、空き家の適正な管理と対策について、条例制定も視野に入れた積極的な対応をすべきだと考えるがいかがか。

【答弁】【市長】土地や建物の管理は、所有者が責任を持つものだが、自治会と協力して防犯環境の観点から所有者に対して注意喚起していく。条例制定化に関しては研究していきたい。

【地籍調査について】

【質問】課税の適正化、公平性の観点から早期の調査完了を望むものだが、現在の進捗状況と調査完了はいつ頃になり、完了するまでの事業費と実質的な市の負担額はいくらかになるのか。

【答弁】【市長】進捗率は約92%であり、完了予定は平成33年度である。今後の事業費概算額は国・県からの予算を確保しても、8億5千万円を見込んでいます。